2024 年度アイデアバッグルール

第24回　全国中学生創造ものづくり教育フェア

「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール　大会要項

1．趣旨・目的

・「ものづくり」の発表を通して，知識や技能を習得し，活用することによりものをつくることや活用の喜びを味わう機会とする。（2021 年度，アイデアバッグ部門と生徒作品コンクールの両方にエントリーしている作品がありました。多くの生徒に参加していただきたい観点から，どちらかに絞って参加をお願いします。）

・技術・家庭科で習得した知識や技能を生かした被服作品等の設計，製作を通して，ものをつくる喜びや仲間と競技をする喜びを味わう機会とする。また，発表の場を通して，他校生徒との交流を図り，合わせて知識や技能の向上を図る機会とする。

・自分や家族の生活をより豊かにするために，個性や工夫を生かした製作の目的を明確にすることにより，製作や活用の喜びを味わう機会とする。

・製作を通して，ものを大切にする心や成就感，自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感する機会とする。

2．開催日　令和7年2月1日（土）（結果発表は2月2日（日））

3．会場　zoom を使ったオンライン開催

（アイデアバッグ本部は笛吹市立石和中学校多目的室に設置）

4．日程　令和7年2月1日（土）

AM　スタッフ集合・打ち合わせ・作品審査・オンラインプレゼン準備

PM　13：00～　開会式・オンラインプレゼン一人あたり5分（紹介3分＋質疑応答2分）最大15人×5分＝およそ80分・閉会式、作品審査（結果集計）

令和7年2月2日（日）AM　結果発表（全日中技家研 web で公開、表彰はなし）

※賞状、副賞等は後日各校へ送付します。

5．費用　1人2000円（本部代表口座に事前入金をしてもらう）

6. 参加人数　15人（最大参加者）今年度は欠員が生じた場合に，再割り当てを行わない。

北海道	東 北	関東 甲信越	東海 北陸	近 畿	中国 四国	九 州	運営県枠 長野山梨	合 計
2	2	2	2	2	2	2	1	15

※選抜方法　以下A･B方式のいずれかを選択する。

〇A方式　ブロック大会において選抜され，ブロック中学校技術･家庭科研究会会長の推薦を受けた者に参加資格がある。当実施要項がA方式の実施要項を兼ねる。

〇B方式　ブロック大会が実施されないブロックの49都道府県市にのみ，応募資格がある。49都道府県市の予選にて，優秀な成績を収めた生徒を最大2名まで選抜し，B方式全国大会予選に応募する。B方式全国大会予選審査の結果，アイデアバッグ事務局より推薦を受けた者に参加資格がある。（別様式のB方式実施要項にしたがい選抜を実施）

7. 出場生徒一覧　（発表順は1月4日の事前会議で決定）

発表順	NO	ブロック	学校名	氏名	学年
8	1	中国四国	香川大学教育学部附属坂出中学校	伊賀　怜奈	3
1	2	中国四国	徳島県立城ノ内中等教育学校	松本　唯那	1
2	3	九州	天草市立本渡中学校	堀田　心晴	2
3	4	九州	西原町立西原東中学校	玉城　陽菜	2
7	5	関東甲信越	伊勢崎市立宮郷中学校	横田　一花	1
5	6	関東甲信越	松戸市立第一中学校	山口　結加	2
4	7	東海北陸	富山大学教育学部附属中学校	伊勢　苺香	2
9	8	東海北陸	福井市足羽中学校	古川　奏	3
6	9	開催県	飯綱町立飯綱中学校	本山　奈緒	3

8. 新しい学習指導要領に対応した「豊かな生活をつくるアイデアバッグ」コンクールへの移行

令和3年度から新学習指導要領が全面実施となり，本コンクールも新学習指導要領に沿って使用する素材等について「自分や家族の衣服やその他の布」に変更する。

新学習指導要領　B衣食住の生活　衣生活（5）ア　生活を豊かにするための布を用いた製作

ア　製作する物に適した材料や縫い方について理解し，用具を安全に取り扱い，製作が適切にできること。

イ　資源や環境に配慮し，生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え，製作を工夫すること。

（内容の取扱い）

キ　（5）のアについては，衣服等の再利用の方法についても触れること。

9．競技の課題および課題製作上の注意点について

(1)　競技の課題について

『バッグ（ショルダーバッグ，トートバッグ，リュックサックなど）』とする。

(2)　使用する布について

・バッグ本体の全部または，一部に，家庭にある自分または，家族の衣服を用いる。

その他，衣服以外の布などを加えてもよい。

(3)　デザイン及び機能について

・衣服の一部をそのままの形で１つ以上活用する。

（例：ポケットの形状やボタンをそのまま利用する　など）

・『バッグ』の口を閉じられるようにして，中身が出ない工夫をする。

(4)　縫製について

・入れるものに必要な強度が保たれるように，布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する。

・バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる。

・スナップは，必ず1つ以上付ける。

・3時間程度で製作できる作品とする。

(5) レポートについて

・レポートには，「テーマ」，「構想」，「自分や家族の生活を豊かにする視点」，「私にとってのものづくりの視点」と「衣服の再利用の工夫（どの部分をどのように　活用するか）」その理由を明記すること。また，まつり縫い・スナップを取り入れた部分を明記すること（朱書きする）。

・解体前の全体像を，写真またはイラストで表す。

(6) プレゼンテーションについて

・当日はオンラインにて「製作した『バッグ』について，3分以内の発表を行う。その際，利用方法，「自分や家族の生活を豊かにする視点」「私にとってのものづくりの視点」，「衣服の再利用の工夫の視点」から発表をする。そのあと審査員から作品や製作について2分程度質疑応答を行う。

・プレゼンテーションは「zoom」でできること全てを認める。

（7） 作成全般について

・生成 AI による生成物を自己の成果物として応募・提出しないこと。

10. 審査項目

評価項目		評 価 の 内 容
レポート【45点】	記述内容	「自分や家族における課題」，「解決方法（衣服等の再利用を含む）」，「期待される効果」，「製作工程」，「型紙の配置」，「まつり縫い・スナップを取り入れた部分」を具体的に記述しているか。
縫製【35点】	縫い代の幅と始末の仕方	・布やバッグの部位に応じて，適切な幅であるか，縫い代を適切に始末しているか。
	ミシン縫い	・バックの部位に応じて，縫い目の大きさや強度が保たれる工夫をしているか。

	手縫い（まつり縫い，スナップ）	・まつり縫いが適切にできているか。 ・スナップを適切に付けているか。
	出来栄え	・作品の出来栄えはどうであるか。
発表 【35点】	発表内容	実際に入れるものを使い，テーマで意図したことを3つの視点から具体的に説明しているか。 ・「自分や家族における課題」 ・「解決方法（衣服等の再利用を含む）」 ・「期待される効果」 3分以内の発表と2分程度の質疑応答を行う。
衣服の再利用 【30点】	デザイン及び機能性	・衣服の一部の利用は，テーマに応じたデザインになっているか。 ・衣服の一部の利用は，テーマに応じた機能を満たしているか。 ・使う人の立場に立った工夫がされているか。

11．表彰

文部科学大臣賞，厚生労働大臣賞，特許庁長官賞，公益財団法人つくば科学万博記念財団理事長賞，全日本中学校技術・家庭科研究会長賞，日本家庭科教育学会長賞，女子栄養大学学長賞
一般社団法人　日本家政学会被服構成学部会長賞，全国家庭科教育協会会長賞

12．審査員

氏　名	所　属
石垣　理子	審査員長・昭和女子大学環境デザイン学部教授（日本家政学会被服構成学部会長）

志村　結美	山梨大学大学院総合研究部教授（日本家庭科教育学会副会長）
坂本　久美	山梨県総合教育センター指導主事（山梨県審査員）
小林　輝紀	長野県総合教育センター教科教育部専門主事（長野県審査員）

13.運営スタッフ

役　職	氏　名	所　属
事業部長	坂本　公彦	甲斐市立竜王中学校（校長）
総務	内田　圭祐	笛吹市立浅川中学校
総務	高井　久	上田市立第五中学校
総務	石原　幸子	南アルプス市立若草中学校
配信・記録	内田　瑛一郎	甲州市立塩山中学校
計時	山田　美和	宮田村立宮田中学校
会場責任者	柳澤　幸子	笛吹市立石和中学校
審査責任者	石田　周子	山梨市立山梨北中学校
運営担当司会	河野　美由紀	笛吹市立御坂中学校
事務局　総務	深澤　茉莉	甲府市立西中学校
事務局　総務	石原　拓馬	笛吹市立石和中学校

14.全国大会までの日程

月　日	内　容	備考
11月中旬	・B方式を選択した都道府県市の代表作品（2点以内）の提出締切り	
11月中旬	・B方式予選作品の審査	
11月下旬	・B方式予選結果の通知	
12月上旬	・A方式による出場者決定、アイデアバッグ事務局へ報告	
12月中旬	・全ての出場者の提出物締切【①アイデアバッグ作品、②製作レポート、③出場生徒紹介文、④参加応諾書】 ①は郵送、②③④は電子メールに添付	12月13日（金）締切
1月上旬	・参加者全体による通信テスト	
1月中旬	・まとめたレポートをオンラインで公開	

15.開会式・作品発表会・審査結果発表会次第

（1）開会式　2月1日（土）13：00～【オンライン（zoom）】（司会：河野　美由紀）

① 開会の言葉（深澤　茉莉）
② 主催者挨拶・審査員の紹介（事業部長　坂本　公彦）
③プレゼン上の注意（アイデアバッグコンクール事務局　石原　拓馬）
④閉会の言葉（深澤　茉莉）
（2）プレゼンテーション
① 発表会の生徒の動きについての説明
② プレゼンテーション発表（競技者番号順①→⑮　一人3分以内　質疑応答2分程度）
（3）閉会式
① 講評（審査委員長　石垣　理子）
② 今後の予定について（アイデアバッグコンクール事務局　石原　拓馬）
③ 写真撮影
④おわりの言葉（深澤　茉莉）

（4）2月2日（日）に表彰は行わない
・結果は「全日本中学校技術・家庭科研究会（http://www.ajgika.ne.jp/index.html）」に掲載

16.その他
（1）参加生徒の学校名，氏名，作品を Web ページなどに掲載する予定。
（2）ホームページアドレス（全日本中学校技術・家庭科研究会）http://www.ajgika.ne.jp
（3）参加費（2000円）については、山梨県技術・家庭科教育研究会の口座に振り込んでいただきます。
全国大会出場が決まり次第、事務局から連絡をさせていただきます。
◎本競技に関わる諸連絡，質問等の連絡先

第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア
「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール　事務局
笛吹市立石和中学校　教諭　石原　拓馬　〒406-0033 山梨県笛吹市石和町小石和 716
TEL 055-262-2225　FAX 055-262-2397　E-mail　ishihara-cnif@es-jhs.kai.ed.jp